

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	国際情報学部	身分	教授
氏名	小向太郎		
NAME	Taro KOMUKAI		

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文) インターネット上の媒介者責任に関する比較法研究

(英文) Comparative study on intermediary liability on the Internet.

2. 研究期間

2022年度 ～ 2023年度

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文600字程度、英文50word程度）

(和文) インターネット上の不適切な情報は増加を続けている。こうした情報への対応にあたっては、ネットワーク上の媒介者の関与が期待される場合が多い。最近では、特に重要な媒介者であるプラットフォーム事業者の責任について、各国で議論されている。その一方で、表現行為の萎縮や通信の秘密やプライバシーの脅威につながるおそれもある。本研究では、よりよい制度に向けた示唆を得ることを目指し、これらの制度や議論動向の比較・検討を行った。

具体的には、主として誹謗中傷やプライバシー侵害などの人格権侵害について、米国、EU、日本において、①被害者がどのような法的救済を受けることができるのか、②媒介者にどのような法的責任が問われるのか、③デジタルプラットフォーム事業者に対してどのような規制が議論・導入されているのか、について比較検討を行った。研究の結果として、日米欧の制度には根本的な相違点があり、違いは拡大していることが明らかになり、我が国の制度の課題について新たな示唆を得ることができた。本研究の成果は、学会研究会で繰り返し報告と議論を行い、国際情報学部発行の国際情報学研究第4巻に論文を投稿している。

(英文) Inappropriate information on the internet continues to increase. Intermediaries, especially Digital platform operators, play an important role in the issue. On the other hand, strict control by intermediaries could cause a chilling effect on free speech and threats to the secrecy and privacy of communications. This study compares and examines legal systems on defamation and privacy infringement associated with intermediary liability in the US, the EU and Japan.

The research questions are: (i) What legal remedies are available to victims? (ii) What legal liability can be imposed on intermediaries? And (iii) What regulations are being discussed and introduced for digital platform operators? The result shows fundamental differences between the systems and the widening of differences. New suggestions for the challenges of Japan's system are also given. The outcome of this research has been repeatedly reported and discussed at conference workshops. An article has been submitted for publication in Volume 4 of the Global Informatics Study, published by the Faculty of International Informatics.